

汎用性のあるRドロップス2号の開発へ

そこで、全国の中小の製造メーカーが、共通して使えるRドロップス2号の開発が進みました。2号の開発は、東京の空びんの回収業者団体が中心となり、全国の清涼飲料メーカーの団体なども協力しました。

Rドロップス2号は、誰でも自由に使える権利フリーのリユースびんで、ジュースはもちろん、お茶やサイダーにも使えて、輸送のプラスチック容器も既存のプラスチック箱が使えるという、とても汎用性の高いリユースびんです。

Rドロップス2号を使って、2012年には、東京の新宿区商店会連合会の「十万馬力新宿サイダー」、福井県池田町の「いけソーダ」、奈良県では、地元の大和茶を使ったお茶飲料「と、わ (To WA)」が発売され、地域経済の活性化と環境に配慮された商品が誕生しました。



▲ 十万馬力新宿サイダーのポスター



▲ いけソーダ

3) リユースびん入り大和茶「と、わ (To WA)」

NPO団体「World Seed」(大阪府八尾市) (以下、同団体) では、リユースの認識を深め、日常生活のなかでリユースを体験できることを目的にして、まず地方公共団体が主催する会議やイベントで提供される飲料で、リユースびん入り商品を普及する取り組みが始まりました。

リユースびん飲料は、リユースを進めていく上で、非常に重要なツールです。しかしながら利便性を追い

求めることでリユースびん飲料の利用は極めて少なくなってきました。

同団体では、そのような背景から、新たなリユースびん飲料である【リユースびん入り大和(やまと)茶(ちゃ)『と、わ (To WA)』』という商品を開発し、奈良県を中心に、普及に取り組んでいます。

■ 大和(やまと)茶(ちゃ)『と、わ』の紹介

原材料に奈良県特産の大和茶(日本茶)を使用した緑茶飲料。主に奈良県内で普及することで、地域経済にも寄与が可能。内容量は、220ml。



と、わ (To WA) ▶

私たちが生活する中で、テレビのニュースで放映される会議の様子には、机の上にPETボトル飲料が並んでいる光景をよく見かけます。

また、地方公共団体が主催する会議やイベントにも、PETボトル飲料がよく利用されています。

こういった、私たちの目がよく集まる公の場でリユースびん飲料が利用されることで、視覚的にリユースの認識を深めることができます。

現在、奈良県の奈良市や生駒市では、市における率先した環境配慮行動の取り組み、そして地域の市民に対してリユースの発信を行い、市全体のリユースの実践に向けて、市が主催する会議やイベントでは、大和茶『と、わ (To WA)』が利用されています。



▲ 2012年、生駒市で開催された「環境首都創造 自治体全国フォーラム 2012 in 生駒」(生駒市・環境首都創造 NGO 全国ネットワーク主催)での利用風景